

Vision science society annual meeting

May 18th ~23rd

博士・修士渡航助成 事後報告書

生命環境系 修士1年
飯塚理子

博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成をいただき、2018年の Vision Science Society の学会に参加した。この学会は毎年アメリカで開かれる国際学会であり、アメリカはもちろん、世界中の研究者が集うトップクラスの学会である。視覚を扱う研究をしている著名な研究者に直に会う機会であると同時に、同年代の大学院生と親交を深めたり、世界中で行われている最先端の研究に触れたりすることができる場でもある。

この度は卒業研究からあつかっている題材である、視覚刺激の運動パターンが時間知覚に及ぼす影響についての研究成果の発表をおこなった。ポスターセッションでの発表であったが、ポスターの前で足をとめて説明を聞いてくれたり、ともに議論をしてくれたりした参加者が多くいた。なかには類似した研究や、自分の研究でどのような成果がでたのかを説明してくれる人もおり、今後の私の研究方針に役立てることができる議論が多くできた。

学会会場はフロリダであり、とても暖かい気候であったが会場には凍てつくほどの冷房が効いていた。口頭発表の会場には「冷房の吹き出し口なので寒い席」という張り紙がしてある席があるほどであった。その席でなくても寒かったのに、その席に座った人はどれほど寒かったのだろうか。しかし、会場のすぐ外にビーチがあり、雷雨が降っていなければ晴れた良い天気であったため、常にフレッシュな気分で学会にのぞむことができた。

初めての学会発表であり、国際学会ということもあって不安な点は多くあったが、ポスター作成などの準備過程から発表練習まで指導教員の先生や研究室のメンバーからの多くの助言をいただいで無事に終わらせることができた。



ポスター会場の様子